

2022「青少年のための科学の祭典」八幡浜大会報告書

- 1 主 催 「青少年のための科学の祭典」八幡浜大会実行委員会
公益財団法人日本科学技術振興財団
- 2 後 援 八幡浜市、八幡浜市教育委員会
八幡浜市小中学校長会、八幡浜市PTA連合会
愛媛県教育研究協議会八幡浜支部
愛媛県立八幡浜高等学校、愛媛県立八幡浜工業高等学校
愛媛県立川之石高等学校
四国電力株式会社、清水商事株式会社

文部科学省、全国科学館連携協議会、全国科学博物館協議会、NHK、
日本物理教育学会、（一社）日本生物教育学会、日本地学教育学会、
日本基礎化学教育学会、（一社）日本科学教育学会、（一社）日本理科教育学会、
（一社）日本地質学会、（一社）日本生物物理学会、一般社団法人日本物理学会、
（公社）応用物理学会、公益社団法人日本化学会、（一社）日本機械学会、
（公社）日本アイソトープ協会、（一財）日本私学教育研究所、
（公社）日本植物学会、（公社）日本動物学会、（公社）日本天文学会、
（公社）日本工学会、（一社）電気学会、日本エネルギー環境教育学会

- 3 協 賛 八幡浜市青少年補導員会
- 4 会 場 八幡浜市民スポーツセンター 住所：愛媛県八幡浜市北浜 1-5-1
- 5 開催日時 令和4年11月12日（土） 9:30～15:30
- 6 来場者数 1,245人
- 7 出展数 20出展
- 8 出展タイトル一覧
- | | |
|--|------------------------------|
| 1. 静電気を体験してみよう | 11. 八幡浜市中学校理科学習発表会 |
| 2. おきあがりこぼし | 12. 地面効果滑走体を作ろう |
| 3. 恐竜の卵 | 13. 水車 |
| 4. 音の伝わり方を利用したおもちゃ | 14. エコ発電 |
| 5. 八幡浜小学校理科作品展 | 15. ロボットアメフト |
| 6. ぶんぶんゴマ | 16. あかりと光と色の不思議 |
| 7. ペーパークラフトで、正多面体を作ろう | 17. 千丈川水族館 |
| 8. 浮沈子 | 18. 雲に浮かべよう シャボン玉！ |
| 9. レジンアクセサリーに挑戦しよう！ | 19. 自分のプログラミングでロボットカーを走らせよう！ |
| 10. ミカク・ウエヒロのおもしろ実験 ～びっくり！どっきり！サイエンスショー～ | 20. 木の葉の化石を掘り出そう |
- 9 製作物 ○ 当日配布資料：A4版／ページ数4／部数：1,000冊
※ 実験解説、コロナウイルス対策、アンケート等のQRコード掲載
○ ポスター：B2版／10色／製作部数：150枚
○ チラシ：A4版／表紙10色（ポスターと同じ）
裏8色／製作部数：4,300枚

- 10 広報活動 製作物（ポスター・チラシ）は、教育委員会やPTAの協力のもと、小中学校・高等学校・保育所（幼稚園）・市役所等の公共施設を中心に配布した。
近隣の小中学校には、児童生徒全員分、遠方は学級数分チラシを配布した。
報道機関等には、事前に実験解説集及びチラシを各1部ずつ配布した。
また、八幡浜庁舎、保内庁舎、伊方庁舎、三崎支所、及び商店街に懸垂幕・横断幕を設置し、広く市民に呼びかける活動を行った。
- 広報やわたはま 10月号
 - ・ 日時、場所、概要等を掲載し、参加を呼びかけた。
 - 広報やわたはま 11月号
 - ・ 日時、場所、概要等を掲載し、参加を呼びかけた。

11 その他

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、第3回開催から節目の20回目の開催をようやく（3年振りに）実施することができた。感染予防のため、八幡浜市内に限った広報活動であったが、一日中、好天に恵まれ、終了時刻を迎えるまで来場者が絶えることがなく、1,245名が来場した。出展ブースの数や内容について、企画段階から3密（密集・密閉・密度）回避の方向を示したため、これまでに比べ出展数が減少したのも影響し、来場者数は3年前に比べ半減した。

「不思議な科学ショーで感動の体験をしてみませんか？」のキャッチフレーズのもと、八幡浜市内の小中学校・高等学校の先生方、一般の方々が中心となって科学の祭典を実施したので、来場者の多くは、満足されていた。

この祭典は、子どもたちに発見と創造の喜びを体感させ、少しでも理科嫌い・理科離れ現象をなくしていくことがねらいの一つとなっている。今年は、全部で20のブースが出展した。「静電気を体験してみよう」「恐竜の卵」「音の伝わり方を利用したおもちゃ」「レジンアクセサリーに挑戦しよう！」「あかりと光と色の不思議」など、各ブースにおいて子どもたちの驚きと感動の声が会場にあふれていた。また、各ブースでは、中・高校生が実験の説明や製作の手伝いを行い、好評であった。

ステージショーでは、今年も「ウエヒロ・ミカクのおもしろ実験」を披露し、「種子」をテーマにした内容で、参観者が体験しながらのステージショーで、子どもたちを魅了した。市内の小中学生による理科作品の展示の発表も興味深いものであった。

事後のアンケートでも、「今まで見たことのないことをしたので、びっくりした」「科学の楽しさが分かった」「これからもぜひ参加したい」などの声が多く寄せられた。子どもたちが、自分の目で見、触れて、体験することで、科学のおもしろさや不思議さを十分味わうことができ、有意義な一日になったと思う。特に、子どもたちの表情やしぐさに満足感や充実感を感じ取ることができ、大きな収穫となった。

一方で、この祭典運営に中心となって関わってきた小中学校の教員数が、20年前に比べ半数となっている。今後も、小中学校・高等学校の統廃合が検討されている中で、現在と同じような運営は出来なくなることが予想される。実行委員会で持続可能な大会開催を目指していくことを検討する。